

特集

松本議員・堀越議員が聞く

小梨町でコメ農家を営む渡橋さんに  
インタビューをしました。

ふるさとの  
耕作放棄地をなくしたい



▲実った稲穂

15年ぐらいい前につくられた農事組合法人の方が高齢で辞められたので、地元の田んぼが荒地だらけになり、これはいけないなと思いました。一番はふるさとの耕作放棄地を見たくないという思いからでした。  
生まれ育った小梨町が好きだったので、広島の日田市に7年住んでいましたが、地元に戻って改めてこちらがいいなと思いました。中学・高校までは、田植えや稲刈りの手伝いくらいはありましたが、本格的には広島酒造会社を辞めて、島根県の酒蔵に冬場だけ行くことになり、春から夏場は時間があったので、最初5反から田んぼづくりを始めて、今は9.5ヘクタールを耕作しています。

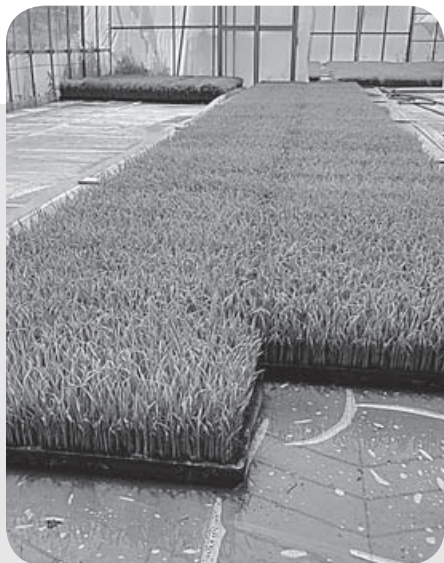
◎ コメ作りを始めたきっかけ  
やコメ作りの経験は  
ありますか？

◎ コメ作りは専門ですか？  
コメだけです。一緒に作れるのは酒米があり、2年前から藤井酒造さんに八反錦を卸して、限定品として作られています。



おりはし たつや  
渡橋 達也さん





▲コメの苗

大きな池もありますが、小梨町の土壌が粘土質なので、1か月間雨が降らなくても、もつんですよ。ただ、冬場はなかなか乾かないというリスクもあります。

**Q 全国的に水不足が言われていますが？**

天候ですかね。10年から20年に一度という猛暑が頻繁におきているので苦労しています。最初はコシヒカリを中心に作っていましたが、コシヒカリは暑さに耐えられなくなって、その品種を変えたりしました。  
大変なことと言うと、物価高で農機具の値段や肥料代も1.5倍に値上がりしています。  
田植え・稲刈り・草刈りは、地元の人に手伝わってもらっていますが、基本一人で作業しているので、水の管理などは大変です。

**Q 酒米、コメ作りで苦労されていることは？**

**Q 販路拡大への取組などは？**

ふるさと納税で増えたことが大きいです。全量JAさんという状況から、安田病院さんや桃苑さん、ランプさんなどへ卸しています。今後はもっと、市内飲食店への卸しを増やせればと考えています。  
また、道の駅のレストランにも出させてもらっていますが、拡大のためのコメの生産が追いついていません。

**Q 竹原市に望むことや今後について**

竹原などの米作りの面積が少ない地域は、トラクターへの国の補助金がふるい落とされて使えないことがあります。大きいところが取ってしまい、三原・東広島でさえ、落とされています。竹原でも補助枠が欲しいです。トラクターは1台約500万円、コンバインも同じくらいします。何とか修理しながら、7〜10年持てばと頑張っています。  
仁賀地区は水が豊富で、去年ですら、水に困っていませんでしたが、法人さんがいないとこのことで、環境の良い地域なので、絶対に続けていかないとダメなと思います。  
新規就農者が入るのに、竹原市はハードルが高いと感じます。私の場合は、父が2〜3反コメを作っていたので、完全に新規でなく引き継ぎでできましたが、例えば、出荷・販売見込み計画をしっかりとしないと難しいところがあります。



▲田植え前